

平成29年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は68%と低かった。自分の考えや思いをもちながら、要点をとらえながら話を聞いたり、最後まで話を聞いたりすることが不十分である。【話すこと・聞くこと】 ・昨年度末の達成率は94%と高かった。文章の要点をとらえ、短い文章にまとめる力は高まっている。また、段落相互の関係をとらえ読む力も高まりつつある。【読むこと】 ・昨年度末の達成率は92%と高かった。漢字の繰り返し学習により、既習の漢字の定着は進みつつあるが、継続した学習が必要である。また、語彙を増やすこと、言葉の特徴やきまりについて理解を深める必要がある。【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて伝えたい内容が、明確に伝わるように話の構成を工夫し、話す活動に取り組む。司会や提案者、参加者など役割をもたせて話し合い活動を行う。 ・引き続き、読解教材の要点を短文でまとめる学習に取り組む。話のまとまりを意識し、自分の言葉でまとめる活動を通じて段落相互の関係をとらえる力をさらに高める。 ・漢字の繰り返し学習については継続して取り組む。語彙を増やしたり、言葉の特徴をとらえたりするために、国語辞典を用いて言葉の意味を調べたり、類義語・対義語を調べたりする等の学習を通し、言葉についての感覚を豊かにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は89%であった。我が国の国土や産業に関する社会事象について把握し考察することは、定着している。話し合ったり、分かりやすく説明したりする力に課題がある。【思考・判断】 ・昨年度末の達成率は89%と高かった。地図や資料を読み取る力がついてきた。地図や資料から得た情報を、適切な言葉を用いて表現することに課題がある。【技能・表現】 ・昨年度末の達成率は84%であった。調べ学習は進んで行くが、その内容と社会科の用語が身に付いていない。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習を取り入れ、学習のまとめとして学習問題に対する答えと自分の考えを再構成する習慣を付ける。また、様々な立場の考えを比較して考えられるように、友達との意見交流の場を意図的に設けるようにする。 ・既習用語をキーワード化して提示したり、それらを用いて説明したりする活動を設けることで、社会科の用語を適切に使い、表現する良さに気付かせる。 ・授業の導入やまとめで社会的な事象や名称などを確認したり、東京ベーシックドリルを活用したりするなど、繰り返し復習して社会科の学習用語の定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は50%と低かった。問題文の意味を読み取り、筋道立てて考える力に課題がある。また、その解き方について図や言葉等を用いて説明する力に課題がある。【数学的な考え方】 ・昨年度末の達成率は74%と低かった。児童の実態に合わせた指導や東京ベーシックドリルを活用した学習の継続により、技能面の定着は高まった。当該学年の前学年までの内容について習熟が必要な児童が数人いる。【技能】 ・技能面の高まりはあるが、学習した内容と算数的な学習用語の結びつきが、特に図形の学習について低い。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・立式のもととなる数値や言葉にアンダーラインを引くなど問題文の読み取りを丁寧に行ったり、数直線に表したりする活動を取り入れることで、課題を正しく把握できるようにする。互いの考えを、ICT機器を活用し共有する場を設定することで、数学的な考え方の基礎を身につける。 ・東京ベーシックドリルの診断テストの実施結果から、児童一人一人のつまづきを把握し、立ち戻る学習を行うことで、苦手を克服できるようにする。 ・授業の導入場面で前時の学習を確認したり、既習事項や既習用語を掲示したりすることで、学習した内容と算数的な学習用語の結びつきを意識し、学習できるようにする。

<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の達成率は73%と低かった。仮説を立てることはできるが、それを解決するための検証方法を立案することが苦手な児童が多い。【思考・表現】 ・昨年度末の達成率は82%であった。引き続き、条件を制御しながら実験・観察を行う力を身に付けていく必要がある。【技能】 ・知識の定着は進んでいるものの、それらが実生活に適用され生かされていることに気付けない児童がいる。【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仮説を立証するための検証方法を教師と共に考えたり、友達と意見を交流したりする活動により重きを置き、自分で検証方法を立案する力を育む。 ・教師の支援の比重を少しずつ減らし、友達との考えの交流をより意図的に設けることで、児童自身で条件を制御し実験・観察を行えるようにする。 ・「仮説に対する自分の考え」を表現する場面で、実生活の中で調べた内容が生かされている事柄についての視点をもたせ、表現させる。また、ICT機器を用いて、教師が意図的に紹介する場面も設ける。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への興味・関心は、全体では高いが、運動の内容により個人差がみられ、運動に対する苦手意識や抵抗感をもつ児童がいる。集団行動のきまりを守ったり、友達と協力し合い、活動したりする面に課題がある。【関心・意欲・態度】 ・自分の能力や技能の習熟度を知り、体力の向上を図るための工夫をしようとする気持ちをさらに育てる必要がある。【思考・判断】 ・運動を楽しく行うための基本的な動きや技能が身に付いていない児童が多い。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育学習や休み時間等の日常の運動遊びを通して、積極的に体を動かそうとする態度を養い、運動の日常化を促進する。ペア学習やトリオ学習など学習形態を工夫し、友達と学び合う場面を充実させる。 ・体づくり運動と保健を関連させた指導を行い、自己の体力に気付いたり、体力の向上を図ろうとしたりする気持ちを育てる。 ・授業の中にコーディネーショントレーニングを取り入れることによって、体を楽しく動かす楽しさを味わわせる活動を充実させ、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科に興味・関心があり、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多い。【関心・意欲・態度】 ・生活経験に差があり、技能面で個人差が大きい。調理や裁縫についての基本的な事項や技能を個別に指導していく必要がある。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、一人一人に基本的な技能習得のめあてをもたせる。個に応じた課題を提示したり励ましたりしながら、担任・講師が休み時間等を活用し補充指導を行う。 ・家庭科カード等を活用し、保護者に活動の様子を伝え、学校での取り組みを土台に、家庭でも取り組めるよう、家庭の理解を得られるようにする。